

藤井燃糸

ヒートセット加工加速

加工量年間千ト目標に



新たに導入したヒートセット加工機

藤井燃糸（三重県四日市市）は10月下旬からヒートセット加工の生産を加速する。月産80ト、年間千トを目標に掲げており、藤井由幸会長兼CEOは「下半期に向けて着実に仕事を増やしていきたい」と話す。

9月末までにヒートセット加工機を工場に設置し、10月から試運転を始める。ナイロンとポリプロピレン（PP）糸に同加工を施す。当面は月産30ト40トの見込み。補助金を含めて総額2億円の投資をした。

ヒートセット加工はカットパイルのカーペットを製造するために必要な工程。糸に同加工をすることで形態が安定

し、カットしても繊維がほつれず、手触りがよい商品が作れる。

同社はここ数年で積極的な設備投資を進めている。4月からPPの溶融紡糸2号機が稼働を始めており、カーペット以外にも自動車のマット向けに採用されるなど生産量は堅調に推移する。

ナイロン糸の加工についても設備のほか、新たに人材も投入し増産体制を図ってきた。現在では年間8500トまでこなせるようになった。

今上半期（4～9月）は増収減益を見込む。PPの紡糸、ナイロン糸の加工量増加が寄与。一方で、原料の高騰で利益を圧迫した。